

2024 年度シラバス

高等学校 1 年



駒沢学園女子中学・高等学校

現代の国語(2024 年度)

単位数	2 単位
担当	新村、明道、渡部
教科書	現代の国語(第一学習社)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりするちからを伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 副教材・参考書

トータルサポート新国語便覧(大修館書店)
常用漢字ダブルクリア 四訂版(尚文出版)
プログレス 現代の国語 総演習(いっずな書店)
改訂版 スタディシーズン 国語の学習 現代文・古典(尚文出版)※春休みの課題
評論速読トレーニング 700(数研出版)(特進・英語クラスのみ)

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業内容を毎時間しっかりとノートにまとめる。
- ・グループ学習・音読・発表などに前向きに取り組み、能力を高める。
- ・提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- ・教材に応じて課題を出す。
- ・年間を通して漢字検定合格を目標にする。授業内で漢字テストを実施し、定期試験にも出題して繰り返し学習する。
※年度当初に各自の漢検取得目標級を決め、漢字テスト・漢検トレーニングアプリ等で合格を目指す。
- ・定期試験の得点が 30 点未満のものを対象として、再試または課題を課す。

5. 評価の基準について

定期試験 70% + パフォーマンス点 30%により評価をする。
パフォーマンスの評価項目として
15 点「話すこと・聞くこと」(発表・スピーチ・プレゼンテーション・討論)
15 点「書くこと」(意見文・読書ノート・通信文・企画書・レポート)
※「現代の国語」は 2 学期から加点をする。
高 1: 4 級(+5 点)・3 級(+10 点)・準 2 級(+15 点)・2 級(+20 点)
各単元に応じた内容で、以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、変更することがある。
- ・聖組(特進クラス)、敬組(英語クラス)の定期試験は進学クラスとは異なる試験を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末 20 h	【理解編】 世界を広げる p 10～15 『なぜ本を読むのか』 又吉直樹 【表現編】 p 134～135 話して伝える/情報の探索と選択 p 156～157 書いて伝える/書き方の基本レッスン①表記・表現の基本ルール ミニ小論文課題「本を読む理由についてあなたの考えを述べなさい。」 GW 課題 【論理分析】 具体と抽象 p 116～119 「日本語は世界をこのように捉える」 小浜逸郎 【理解編】 言葉が開く世界 『言葉遣いとアイデンティティ』 中村桃子 【表現編】 p 138～141 話して伝える/スピーチで自分を伝える・「私の主張」原稿作成 p 156～157 書いて伝える/書き方の基本レッスン②接続表現 漢字テスト
二学期	期末 22 h	【理解編】 生活の中の表現 p 64～68 図書委員会のポスターの掲示内容を検討する 【理解編】 社会と人間 p 79～85 『人はなぜ仕事をするのか』 内田 樹 ●小論文模試 【論理分析】 対比 p 112～115 「『間』の感覚」 高階秀爾 【表現編】 p 130～133 話して伝える/論理的な表現 p 160～161 書いて伝える/書き方の基本レッスン③表現の工夫 漢字テスト
三学期	学年末 12 h	【理解編】 現代と社会 p 88～97 『イースター島になぜ森がないのか』 鷲谷いづみ 【表現編】 書いて伝える 社会に対する意見文を書く 漢字テスト

言語文化(2024 年度)

単位数	2 単位
担当	中島、新村
教科書	言語文化(第一学習社)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりするちからを伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 副教材・参考書

トータルサポート新国語便覧（大修館書店）
学ぶぞ 古文と漢文（尚文出版）
学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート（尚文出版）
改訂版スタディーシーズン国語の学習・現代文・古典（尚文書店）※春休みの宿題
プログレス現代の国語総演習（いっずな書店）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

配布プリントを使って、授業内容を毎時間しっかりとまとめる。
グループ学習・音読・発表などに前向きに取り組み、能力を高める。
提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

教材に応じて課題を出す。
定期試験の得点が 30 点未満のものを対象として、再試または課題を課して合格できるまで行う。
多読のための課題を学期に 1 回出す。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点 80%(基本問題 50%応用問題 30%)
- ・P 評価(20%)音読・各作品の課題・学力テスト・小テスト・授業プリント・発表・授業の取り組みによって観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり、変更することがある。
聖組（特進クラス）・敬組（英語クラス）の定期試験は進学クラスとは異なる
敬組（英語クラス）は 2 学期まで

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	古文の学習 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 漢文の学習 訓読に親しむ（一） 古文 歴史的仮名遣い・言葉の単位・単語の分類と品詞 漢文 返り点の種類と用法
	期末	訓読に親しむ（二） 韓非子「矛盾」 言語活動「故事成語の由来と意味を調べる」 『竹取物語』 「なよ竹のかぐや姫」 古文 用言と活用・動詞の活用（+形容詞・形容動詞の活用→特進クラス英語クラス） 漢文 助字・置き字（+再読文字→特進クラス英語クラス） ・多読課題『とんかつ』（三浦哲郎）を読んで
二学期	中間	『枕草子』 「うつくしきもの」 『羅生門』（前半）芥川龍之介 古文 動詞・形容詞・形容動詞の活用（+助動詞（過去・完了・打消）→特進クラス英語クラス）
	期末	『羅生門』（後半）芥川龍之介 言語活動『羅生門』の典拠をなした『今昔物語集』の本文を調べ、『羅生門』ではどのような要素を加えて話を膨らませているか、考え、まとめる。 漢文 再読文字 ・多読課題『鏡』（村上春樹）を読んで
三学期	学年末	唐詩の世界 『伊勢物語』 「筒井筒」 古文作品とそれについて書かれた現代作品を比較読みする 古文 助動詞（過去・完了・打消）（+助動詞（推量・断定）→特進クラス英語クラス） 漢文 再読文字 ・多読課題『よろこびの歌』（宮下奈都）を読んで

歴史総合 (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	山本
教科書	詳述歴史総合 (実教出版)
対象生徒	高校 1 年 (進学・特進)

1. 授業の目標

現代の事象を理解するために歴史を学び、日々の生活の中でも応用できるような知識と教養を養う。
また、授業内においては資料を読み取る力をつけ、現代社会の諸問題、日本と世界のかかわりについて考察していけるようにする。

2. 副教材・参考書

なし

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し、重要語句を調べてくることが望ましい。
- ・日々の課題や授業内におけるグループワークには積極的に取り組むこと。
- ・中間試験は実施しない。

4. 宿題・課題・再試について

- ・予習を兼ねた課題が課される。
- ・定期試験は教科書の内容に準じた内容となる。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(70%)、課題・発表・提出物(20%)、小テスト(10%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験・小テスト	定期試験	日々の課題の提出
A	問題を概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題を解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業の進行の中で、必要に応じて一部をピックアップすることがある。

学期		授業内容 (教材)
一学期	学期末	第 1 編 近代化と私たち 第 1 章 近代化への胎動 第 2 章 欧米の市民革命と国民国家の形成 第 3 章 アジアの変容と日本の近代化
二学期	学期末	第 4 章 帝国主義の時代 第 2 編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第 5 章 第一次世界大戦と大衆社会 第 6 章 経済危機と第二次世界大戦
三学期	学期末	第 3 編 グローバル化と私たち 第 7 章 冷戦と脱植民地化 第 8 章 多極化する世界 第 9 章 グローバル化と現代世界

歴史総合（2024 年度）

単位数	2 単位
担当	栗山
教科書	詳述歴史総合（実教出版）
対象生徒	高校 1 年（英語クラス）

1. 授業の目標

現代の事象を理解するために歴史を学び、日々の生活の中でも応用できるような知識と教養を養う。また、授業内においては資料を読み取る力をつけ、現代社会の諸問題、日本と世界のかかわりについて考察していけるようにする。3 学期のニュージーランドターム留学へ向けて、マオリの文化やニュージーランドの歴史、イギリスの植民地政策等について学習する。

2. 副教材・参考書

なし

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し、重要語句を調べてくることが望ましい。
- ・日々の課題や授業内におけるグループワークには積極的に取り組むこと。
- ・中間試験は実施しない。

4. 宿題・課題・再試について

- ・定期試験は教科書、授業の内容に準じた内容となる。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。
- ・単元ごとの振り返りを実施する。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(70%)、課題・発表・提出物・小テスト等(30%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	試験(基本問題)	試験（応用・論述問題）	日々の課題の提出・発表への取り組み
A	基本的な知識が定着している。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。分かりやすい工夫や発表の姿勢が見られる。
B	概ね問題に解答できている。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。発表への必要な準備をし、取り組んでいる。
C	基本的な問題は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。発表への準備は行っている。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業の進行の中で、必要に応じて授業内容が変更することもある。

学期	授業内容（教材）
一学期	歴史の扉 第 1 編 近代化と私たち ・ 17 世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出 ・ ヨーロッパの海外進出と市民社会 ・ 清の繁栄 ・ 東アジア諸国間の貿易 ・ イギリス産業革命 ・ アメリカ独立革命 ・ フランス革命とナポレオン ・ イタリア、ドイツの統一 ・ 世界市場の形成 ・ 南アジア、東南アジアの改革 ・ アヘン戦争の衝撃 ・ 開国 ・ マオリの文化

二 学 期	学 期 末	・ 帝国主義と世界分割 ・ 帝国主義期の王税社会 ・ 条約改正 ・ 日清戦争 ・ 日露戦争から韓国併合へ ・ アジア諸民族の独立運動、立憲革命 第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・ 緊迫する国際関係 ・ 第一次世界大戦 ・ ロシア革命とシベリア出兵 ・ ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ・ 東アジア、東南アジアの民族運動 ・ 戦間期の欧米 ・ 世界恐慌 ・ ファシズム ・ 満州事変と軍部の台頭 ・ 日中戦争 ・ 第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 ・ ニュージーランドの歴史 ・ イギリスの植民地政策
-------------	-------------	---

地理総合 (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	上戸涼平
教科書	地理総合（二宮書店）
対象生徒	高校 1 年 (進学クラス)

1. 授業の目標

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けることを出来るようにする。そのために、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。また、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力も身に付ける。

2. 副教材・参考書

- ・ 詳解現代地図 最新版（二宮書店）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・ 積極的に地授業へ参加し、授業中に出された課題はしっかり取り組むこと。
- ・ 予習や復習は授業のノートやプリントだけでなく、教科書を使用して行うことが望ましい。
- ・ 地図を用いた授業を行うため、地図帳を教科書同様、授業の際には必ず持ってくること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・ 宿題や課題は授業中に指示をする。
- ・ 定期テストで 30 点未満の者は再試または再試課題を出す。尚、中間テストは実施しない。

5. 評価の基準について

- ・ 定期試験の得点(70%～80%)，提出物(20～30%)により評価し、観点別評価は以下の表に沿って行う。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画については予定である。時事問題の導入具合により進度に多少の変更がある可能性がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	第 1 章 地図と GIS の活用 球面上の世界・世界から見た日本の位置と領域・国内や国家間の結びつき 暮らしのなかの地図と GIS 第 2 章 地理的環境の特色 地形と生活文化・気候と生活文化・産業と生活文化・宗教・言語と生活文化
二学期	期末	第 3 章 世界各地の生活文化 経済発展と生活文化の変化(東アジア)・宗教の多様性と生活文化(ASEAN 諸国) 水の恵みと生活文化(南アジア)・イスラーム社会の多様性と生活文化(イスラーム圏) 多様な気候と生活文化(アフリカ)・経済統合による成果文化の変化(EU と周辺諸国) 寒冷な気候と生活文化(ロシア)・グローバル化による生活文化の変化(アメリカ・カナダ) 土地の開拓による生活文化の形成(ラテンアメリカ) 植民問三人による生活文化の形成(オセアニア)
三学期	学年末	第 4 章 地球的課題と国際協力 地球環境問題 ・ 資源・エネルギー問題 ・ 人口・食糧問題 ・ 住居・都市問題

地理総合(2024 年度)

単位数	2 単位
担当	上戸涼平
教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院)
対象生徒	高校 1 年(特進クラス)

1. 授業の目標

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けることを出来るようにする。そのために、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。また、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて構想できる力も身に付ける。

2. 副教材・参考書

- ・新詳 高等地図(帝国書院)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・積極的に地授業へ参加し、授業中に出された課題はしっかり取り組むこと。
- ・予習や復習は授業のノートやプリントだけでなく、教科書を使用して行うことが望ましい。
- ・地図を用いた授業を行うため、地図帳を教科書同様、授業の際には必ず持ってくること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・宿題や課題は授業中に指示をする。
- ・定期テストで 30 点未満の者は再試または再試課題を出す。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(70%～80%)，提出物・小テスト(20～30%)で評価し、観点別評価は以下の表に沿って行う。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画については予定である。時事問題の導入具合により進度に多少の変更がある可能性がある。
中間テストは実施しない。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	第 1 部 第 1 章 地図と地理情報システム 地球上の位置と時差・地図の役割と種類 第 2 章 結びつきを深める現代世界 現代世界の国家と領域・グローバル化する世界
二学期	期末	第 2 部 第 1 章 生活文化の多様性と国際理解 世界の地形と人々の生活・世界の気候と人々の生活・世界の言語・宗教と人々の生活 歴史的背景と人々の生活・世界の産業と人々の生活 第 2 章 地球的課題と国際協力 複雑に絡み合う地球的課題・地球環境問題・資源・エネルギー問題・人口問題 食糧問題・都市・住居問題
三学期	学年末	第 3 部 持続可能な地域づくりと私たち 日本の自然環境・地震・津波と防災・火山災害と防災・気象災害と防災・自然災害への備え・生活圏の調査と地域の展望

単位数	2 単位
担当	永井 俊道
教科書	新地理総合（帝国書院）
対象生徒	高校 1 年(英語クラス)

1. 授業の目標

- ① 日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解し、現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。
- ② 現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて、世界的視野から多面的・多角的に考察し、表現する。
- ③ 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解し、世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。
- ④ 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。
- ⑤ ニュージーランドの地理的環境と生活文化との関係について探求し、自分のテーマを定めてプレゼンができるようになる。

2. 副教材・参考書

- ・新詳高等地図（帝国書院）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・積極的に授業へ参加し、授業中に出された課題にしっかり取り組むようにしてください。
- ・課題は、プリントだけではなく、ロイロノートで授業中にも提出するので、ipad の充電を忘れないようにしてください。

4. 宿題・課題・再試について

- ・課題や探究テーマは授業中に指示します。
- ・定期テストで 30 点未満の場合、再試または再試課題を課します。また、中間試験は実施しません。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(80%～90%)、パフォーマンス評価(10～20%)により評価し、観点別評価は以下の表に従って評価を出します。
- ・パフォーマンス評価については、授業時数と進度により比率を変更する場合があります。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画については順番を変更したり、歯 pp 表などの時間により変更する場合があります。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	第 1 部 地図でとらえる現代社会 地図と地理情報システム・結びつきを深める現代社会
		第 2 部 国際理解と国際協力 第 1 章 生活文化の多様性と国際理解 世界の地形と人々の生活・世界の気候と人々の生活・世界の言語・宗教と人々の生活

一 学 期	期 末	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地域的課題と国際協力 地球環境問題・資源エネルギー問題・人口問題・食糧問題・都市と居住問題 第3部 ニュージーランドに関する探究学習
三 学 期	学 年 末	※ターム留学者は授業がありません。 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 地震・津波と防災・火山災害と防災・気象災害と防災・自然災害への備え

数学 I (2024 年度)

単位数	3 単位
担当	生嶋，二村，萩原
教科書	新編数学 I (数研出版)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

2. 副教材・参考書

Study-Up ノート数学 I + A (数研出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し，例題を解くなど予習をしてから授業に参加することが望ましい。
- ・授業が終わった内容は，Study-Up ノート，宿題プリントで復習する。疑問点は質問し，放置しない。
- ・試験前に放課後セミナーを実施する。試験の最終確認に活用すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・Study-Up ノート，宿題プリントを毎回の宿題とする。提出状況をパフォーマンス評価の対象とする。
- ・上記以外に必要なに応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。合格点は 50 点以上とする。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 50%応用問題 30%)，提出物(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり，授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	第 1 章 式と計算 ・式の計算(多項式の加法と減法，多項式の乗法，因数分解) ・実数(実数，根号を含む式の計算) ・1 次不等式
	期末	第 2 章 集合と命題(集合，命題と条件，命題とその逆・裏・対偶，命題と証明)
二学期	中間	第 3 章 2 次関数 ・2 次関数とグラフ(関数とグラフ，2 次関数のグラフ) ・2 次関数の値の変化(2 次関数の最大・最小，2 次関数の決定) ・2 次方程式と 2 次不等式(2 次方程式，2 次関数のグラフと x 軸の位置関係，2 次不等式)
	期末	第 4 章 図形と計量 ・三角比(三角比，三角比の相互関係，三角比の拡張) ・三角形への応用(正弦定理，余弦定理，正弦定理と余弦定理の応用，三角形の面積，空間図形への応用)
三学期	学年末	第 5 章 データの分析 (データの整理，データの代表値，データの散らばりと四分位数，分散と標準偏差，2 つの変量の間の関係，仮説検定の考え方) ※英語クラスは留学のため授業・試験なし

数学 A (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	生嶋, 小西
教科書	新編数学 A (数研出版)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

図形の性質, 場合の数と確率について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と人間の活動の関係について認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。

2. 副教材・参考書

Study-Up ノート数学 I + A (数研出版)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し, 例題を解くなど予習をしてから授業に参加することが望ましい。
- ・授業が終わった内容は, Study-Up ノート, 宿題プリントで復習する。疑問点は質問し, 放置しない。
- ・試験前に放課後セミナーを実施する。試験の最終確認に活用すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・Study-Up ノート, 宿題プリントを毎回の宿題とする。提出状況をパフォーマンス評価の対象とする。
- ・上記以外に必要なに応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。再試合合格点は 50 点以上とする。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 50%応用問題 30%), 提出物(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり, 授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	準備 集合 第 1 章 場合の数と確率 ・場合の数(集合と要素の個数, 場合の数, 順列, 組合せ)
	期末	・確率(事象と確率, 確率の基本性質, 独立な試行と確率, 条件付き確率, 期待値)
二学期	中間	第 2 章 図形の性質 ・平面図形(三角形と辺の比, 三角形の外心・内心・重心, チェバの定理・メネラウスの定理, 円に内接する四角形, 円と直線)
	期末	・平面図形(2 つの円, 作図) ・空間図形(直線と平面, 空間図形と多面体)
三学期	学年末	第 3 章 数学と人間の活動 (約数と倍数, 素数と素因数分解, 最大公約数・最小公倍数, 整数の割り算, ユークリッドの互除法, 1 次不定方程式, 記数法, 座標の考え方, ゲーム・パズルの中の数学) ※英語クラスは留学のため授業・試験なし

化学基礎 (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	稲津 敦・菱山 悟
教科書	新編 化学基礎 (東京書籍)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

化学基礎の学習を通して、自分達の周囲にある様々な物質や現象に対して化学的な視点を獲得させるとともに、地球規模での環境問題等について持続可能な開発目標(SDGs)を化学的な視点で考えていく態度を養う。

なお、これらの視点・態度は、実験・観察において、仮説・計画・分析・検証・発表などの活動を取り入れることでも養っていくことを目指す。また、ICT 機器を活用し、生徒－教員間、生徒－生徒間の双方向型の学習を促進することで、主体的・対話的で深い学びの実現を目標とする。

2. 副教材・参考書

[新課程] ニューサポート 新編化学基礎 (東京書籍)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

化学では、身の回りの物質が起こす現象を原子・分子の視点から理解していくために、その性質や原理などを学習していく教科である。そのためには、新しく学習した言葉の一つ一つの意味を単に暗記するだけではなく自分の言葉としてかみ砕き説明できるようになることを大切にするとともに、既習の言葉や概念との関連性を考えることが必要である。

授業内では一方向の学習だけではなく、生徒自らが論点をまとめ、発言・発表・論述などができるように取り計らう。また、授業・復習のどちらにおいても、疑問点・問題点を見出すような意識を持てるように促すことも重要である。

4. 宿題・課題・再試について

定期的に小テストまたは課題演習を行い、単元ごとに学習状況を把握できるように努める。また、可能であれば各学期で実験等を行い、その内容をレポートにまとめさせ、それを宿題・課題とする。

5. 評価の基準について

定期試験の得点、小テストや実験レポート等のパフォーマンスにより、以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験 (80%)		パフォーマンス (20%)
A	物質に関する概念や原理・法則を理解し、現代の生活を支える化学の役割や人間生活との関わりについて考察できる。	身近な物質とその変化の中から、問題点を指摘し、観察・実験をもとに解決できる。	観察や実験を通して、単に指示された通りに行動するのではなく、自らが目的や見通しをもって、主体的に物事に取り組むことができる。
B	物質に関する概念や原理・法則を理解し、物質が日常の様々な場面で関わっていることを理解できる。	身近な物質とその変化の中から、問題点を見つけ出し、仮説をたてることことができる。	実験や観察を通して、指示された操作を的確に行うことができる。
C	物質に関する概念や原理・法則を理解している。	身近な物質とその変化について、問題点を見つけ出すことができる。	実験や観察に参加できている。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

※ 定期試験とパフォーマンスの割合は、変更の可能性がある

6. その他 授業計画は予定であり、多少前後する可能性がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	1 編 1 章 物質の成分と構成元素 ・ 純物質と混合物 ・ 混合物の分離と精製 ・ 単体と化合物 ・ 元素の確認・同物質の三態 2 章 原子の構造と元素の周期表 ・ 原子の構造 ・ 電子配置 ・ 元素の周期表
	期末	3 章 化学結合 ・ イオンとイオン結合 ・ 分子と共有結合 ・ 金属と金属結合 ・ 化学結合と物質の分類
二学期	中間	2 編 1 章 物質と化学反応式 ・ 原子量・分子量・式量 ・ 物質質量 ・ 化学反応式とその量的関係 ・ 溶液の濃度
	期末	2 章 酸と塩基 ・ 酸と塩基の定義 ・ 水素イオン濃度と pH ・ 中和反応と塩 ・ 中和滴定
三学期	学年末	3 章 酸化還元反応 ・ 酸化と還元の定義 ・ 酸化剤と還元剤 ・ 酸化還元の反応式 ・ 金属の酸化還元反応 ・ 酸化還元反応の応用

生物基礎 (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	倉岡
教科書	高校生物基礎（実教出版）
対象生徒	高校 1 年生

1. 授業の目標
- 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てる。また，生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。
2. 副教材・参考書
- アクセスノート生物基礎新課程版（実教出版）
3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習，復習のポイント等
- ・授業中に大事だと思ったことは，授業プリントにメモすること。

・各単元の授業が終了したら，問題集で対応する問題を解くこと。分からないところは早めに質問すること。

・定期試験直前には，授業内で試験前の対策として授業のまとめや問題集の解説を行う。
- 試験の最終確認に活用すること。
4. 宿題・課題・再試について
- ・調べ学習およびプレゼンテーション，実験レポートなどの課題を課す。取り組み状況によりパフォーマンス評価の加点対象となる。

・定期試験毎に授業プリントと問題集の提出を求める。提出状況によりパフォーマンス評価の加点対象となる。

・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験または課題を課す。
5. 評価の基準について
- ・定期試験の得点 (80%)，パフォーマンス (20%) により評価をする。

・以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験 (基本問題)	定期試験 (応用問題)	パフォーマンス (提出物・発表等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他
- ・授業計画は予定であり，状況に応じて授業の進度の前後や変更をする場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 1. 生物の多様性・共通性 2. 生物の共通性と進化 3. 細胞 2節 生物とエネルギー 1. 代謝とエネルギー
	期末	第1章 生物の特徴 2節 生物とエネルギー 2. 酸素と代謝 3. 光合成 4. 呼吸 5. エネルギーの流れ 第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 1. 遺伝子の本体 2. DNAの複製と分配
二学期	中間	第2章 遺伝子とその働き 2節 遺伝情報の分配 1. 遺伝子とタンパク質 2. タンパク質の合成 3. 遺伝子の発現 4. ゲノムと遺伝子 第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 1. 体内環境と恒常性 2. 体液とその働き 3. 体温の調節
	期末	第3章 生物の体内環境とその維持 2節 体内環境の維持のしくみ 1. 情報の伝達 2. 自律神経系による情報伝達 3. 内分泌系による調節 4. 内分泌系と自律神経系による調節 3節 免疫 1. 生体防御と免疫 2. 自然免疫のしくみ 3. 獲得免疫のしくみ 4. 免疫と疾患
三学期	学年末	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移 1. 生態系 2. 植生とその変化 3. 遷移のしくみ 2節 気候とバイオーム 1. 世界のバイオームとその分布 2. 日本のバイオーム 3節 生態系と物質循環 1. 生物の多様性 4節 生態系バランスと保全 1. 生態系のバランス 2. 人間生活による環境への影響 3. 生態系の保全の重要性

科学と人間生活 (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	稲津
教科書	科学と人間生活（実教出版）
対象生徒	高校 1 年 英語クラス

1. 授業の目標

自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことなど通して理解し、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2. 副教材・参考書

「アクセスノート科学と人間生活」（実教出版）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

授業内では一方向の学習だけではなく、生徒自らが論点をまとめ、発言・発表・論述などができるように取り計らう。また、授業・復習のどちらにおいても、疑問点・問題点を見出すような意識を持てるように促すことも重要である。

4. 宿題・課題・再試について

定期的に小テストまたは課題演習を行い、単元ごとに学習状況を把握できるように努める。また、可能であれば各学期で実験等を行い、その内容をレポートにまとめさせ、それを宿題・課題とする。

5. 評価の基準について

定期試験の得点、小テストや課題、実験レポート等のパフォーマンスにより、以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験（60％）		パフォーマンス（40％）	
A	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりに ついて深く理解している。	人間生活と関連のある自然の事物 や現象の中に問題を見出し、実験・ 観察・調査などを行い、ものごとを 実証的・論理的に考察したり分析し たりすることができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり、 科学的に探究しようとする態度が養わ れており、科学的に探究するために必 要な観察・実験などに関する技能を身 に付けている。	
B	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりに ついて理解している。	人間生活と関連のある自然の事物 や現象の中に問題を見出し、実験・ 観察・調査などを行い、分析したり することができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり、 科学的に探究しようとする態度が養わ れており、科学的に探究するために必 要な観察・実験などに関する技能を身 に付けようとしている。	
C	自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりに ついて理解しようとしている。	人間生活と関連のある自然の事物 や現象の中に問題を見出し、実験・ 観察・調査などを行うことができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり、 科学的に探究しようとする態度が養わ れている。	
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	

※ 定期試験とパフォーマンスの割合は、変更の可能性がある

6. その他 授業計画は予定であり、多少前後する可能性がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	1 章 科学と技術の発展 1. 科学と技術の始まり 2. 海 ―とくに深海を科学の眼で見よう― 3. 土 ―農業を通して考える― 2 章 物質の科学 1 節 材料とその再利用 1. 生活の中のさまざまな物質 2. 金属 3. プラスチック 4. セラミック
	期末	3 章 生命の科学 1 節 ヒトの生命現象 1. 私たちの生活環境と眼 2. ヒトの生命活動と健康の維持 3. ヒトの生命現象と DNA

一 学 期	中間	4 章 光や熱の科学 1 節 熱の性質とその利用 1. 熱 2. 熱の発生 3. エネルギーの変換と利用
	期末	5 章 宇宙や地球の科学 2 節 身近な自然景観と自然災害 1. 身近な景観のなりたち 2. 地球内部のエネルギー 3. 自然の恵みと自然災害 6 章 これからの科学と人間生活

保健体育 (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	山崎、大地
教科書	
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

運動の楽しさや喜びを味わい、基本的な技能を身に着ける。
運動を通して体力の向上を図る。
競走や協同の経験を通して公正さ・協力性・自分の役割を知ることを育てる。
生涯を通して健康の楽しさを学ぶ。

2. 副教材・参考書

アクティブスポーツ(大修館書店)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

ケガのないように準備運動をしっかりと行う。
説明をしっかりと聞き、安全を第一に考える。

4. 宿題・課題・再試について

各運動における競技施設やルールについて調べ学習を行う。

5. 評価の基準について

- ・実技試験 1 の得点 (4 0 %)、実技試験 2 の得点 (4 0 %)、提出物(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	実技試験 1		実技試験 2	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	8 0 ～ 1 0 0 %		8 0 ～ 1 0 0 %	8 0 ～ 1 0 0 %
B	3 0 ～ 8 0 %		3 0 ～ 8 0 %	3 0 ～ 8 0 %
C	0 ～ 3 0 %		0 ～ 3 0 %	0 ～ 3 0 %
	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	種目	授業内容
一学期	スポーツテスト 駒女体操 体育祭種目練習	50m 走、立幅跳、ハンドボール投げ 駒女体操テスト 各競技種目練習
	水泳	クロール、平泳ぎの25m タイム取り
二学期	ソフトボール 持久走	キャッチボール、捕球、打撃など 実技テスト ゲーム 900m タイム(3周) 1500m タイム(5周)
三学期	バスケットボール	ボールハンドリング パス、ドリブル、ドリブルシュート 実技テスト ゲーム・審判法

高校 1 年生
 保健

単位数	1 単位
担当	二見 季子
教科書	大修館書店 現代保健体育
対象生徒	高校 1 年 美・善・真・聖・敬

1. 授業の目標
- 個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようし、生涯を通じて自らの健康を具体的かつ行動的に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
2. 副教材・参考書
- 教授用参考資料
3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等
- 単に 1 教科だけでなく関連の教科や、学校行事、部活動などとの関連を考慮し、本教科の特性を生かした積極的な学校生活が送れるようにする。
- 日常生活で健康問題に遭遇した場合に活用できるように自らの心身への興味・関心を促す。
4. 宿題・課題・再試について
- 特になし
5. 評価の基準について
- 定期試験（80％） パフォーマンス調べ学習（10％） ノート提出（10％）

	定期試験	パフォーマンス・調べ学習	ノート提出
A	80％～100％	10％	10％
B	30％～80％	5％	0％
C	0％～30％	0％	0％
	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	意欲・関心

6. その他

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 健康と意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり 生活習慣病とその予防 食事と健康
二学期	期末	運動と健康 薬物乱用と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 現代の感染症 感染症の予防
三学期	学年末	性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制 心身の相関とストレス ストレスの対処法 心の健康と自己実現

音楽 I (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	平田亮介
教科書	高校生の音楽 (教育芸術社)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる。
- (2) 音楽に対する感性をより豊かにし、表現の技能を伸長し、創造的に表現する能力を高める。
- (3) 世界の多様な音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。

2. 副教材・参考書

リコーダーライブラリー

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・歌唱や器楽の授業ではクラスメイトと協力して授業を進めることがあるので協調性を
- ・授業で行った基本的な音楽の知識は授業内小テストでこまめな確認を行う。小テストの前にはプリント学習などを配布するので内容理解に努める。
- ・鑑賞などでは自分の言葉で詳しく書くことを大切にする。

4. 宿題・課題・再試について

提出物は基本的にロイロノートへの提出とする。
授業内小テストも定期試験と同様に点数が低い場合は再試を行う場合がある。

5. 評価の基準について

- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	筆記試験 実技試験（基礎的な技能）	鑑賞授業 実技試験（応用・表現等）	提出物・課題等
A	100%～80%	100%～80%	100%～80%
B	80%～30%	80%～30%	80%～30%
C	30%～0%	30%～0%	30%～0%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画			
学期	試験	授業内容（教材）	
一学期	中間	導入 楽典 音楽の基礎知識（音名 音価 音部記号）	
	期末	歌唱 斉唱 校歌（響きづくりのポイント 歌詞に込められた曲想を生かす） 器楽 リコーダー（楽器の歴史 奏法について カノン バロックハウダウン） 鑑賞 ラヴェル ショパン（管弦楽く ピアニズム）	
二学期	中間	歌唱 女声二部合唱（二部合唱の響き 作品の背景）	
	期末	器楽 リズム（Clapping Quartet No1） 鑑賞 ベートーヴェン（交響曲 協奏曲 ピアノソナタ 弦楽四重奏） 創作 リズム創作（Garage Band） 楽典 拍子 楽語	
三学期	学年末	歌唱 イタリア歌曲（言葉の響き 旋律の美しさ Caro mio ben） 器楽 リコーダー（サミング 高音域のポイント ていんさぐぬ花 メヌエット） 鑑賞 ミュージカル 作曲家の生涯（West Side Story） 創作 メロディ創作（Garage Band）	

芸術・美術 I（2024 年度）

単位数	2 単位
担当	高橋 千草
教科書	高校生の美術 1 日本文教出版
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2. 副教材・参考書

特になし

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業内で疑問を解決し、計画的に作品を完成できるような姿勢で参加することが望ましい。
- ・授業を欠席した場合は提出期限前までに放課後自主的に不足分を補う事が望ましい。
- ・課題制作の上で試行錯誤しながらも粘り強くチャレンジする姿勢が望ましい。
- ・課題は期限までに完成させ必ず提出する。

4. 宿題・課題について

- ・授業内で課題が完成されない場合は宿題となる。

5. 評価の基準について

- ・各学期の課題（提出物 100%）により 評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける

	課題（作品）	課題（作品）	作品に対する取り組み方
A	対象や事象を捉える造形的な視点について、理解をより深めている。 意図に応じて表現方法を創意工夫し続け、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練り、価値意識を持って美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の活動に積極的に取り組もうとしている。
B	対象や事象を捉える造形的な視点について、理解を深めている。 意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術文化に対する見方や感じ方を深めようとしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。

C	対象や事象を捉える造形的な視点について、理解している。意図に応じて表現し、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想をし、価値意識を持って美術文化に対する見方を感じている。	美術や美術文化に関わり表現及び鑑賞の活動に取り組もうとしている。
	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり、授業の進捗状況により課題の増減がある場合もある。

リモート授業等で授業内容の変更あり

高1美術Ⅰ授業計画 (夏休みの課題…顔のイラストレーションの一部・色の学習)

	授業計画
1 学期	デザイン 2点透視を使った平面構成 絵画 静物画 (油彩)
2 学期	絵画 抽象画 (油彩) デザイン 図形をモチーフにした平面構成 立体
3 学期	絵画 静物画 (油彩) 絵画・デザイン 顔のイラストレーション

書道 I

単位数	2 単位
担当	酒井 篤史
教科書	書道 I (教育図書)
対象生徒	高 1 書道選択

1、授業の目標

芸術科書道という分野を理解し、臨書力を身につける。

古典臨書を通じて、表現の基礎を学ぶ。

用具・用材、執筆法、用筆法を理解した上で課題に取り組む。

2、副教材・参考書

プライマリーブック

3、学習する上での留意点

2時間の時間配分を考え、できるだけ集中して練習できるようにする。

用具の取り扱いに十分注意する。

4、宿題、課題について

基本的には4時間に1度、作品を提出する。

5、評価の基準について

提出作品により基本となる評価を付ける。

提出作品は全体の八割を占め、残りの二割がノート点と発表などの点。

作品の出来があまり良くなくても、コツコツと努力を重ねている者に関しては考慮する。

	パフォーマンス（課題） 80%	パフォーマンス（ノート） 10%	パフォーマンス（発表等） 10%
A	高度な筆の技術や高度な書道に関する知識がある	不足なく適切にまとめ、読みやすく復習しやすいノート作りができています。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。

B	筆の技術や書道に関する知識がある。	適切にまとめ、読みやすいノート作りができています。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	筆の技術や書道に関する知識を理解している。	ノート作りができています。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

2024 年度 年間指導計画表

学期	月	時間	教科書ページ	授業内容	指導内容・備考等
一学期	4	4		曹洞宗書道展の課題	半紙に4字を書く 書写の復讐を兼ねて
	5	2	口絵～11	書写から書道 用具・用材と姿勢・執筆法 漢字の変遷・書の古典	書写と書道の共通点と相違点 用具・用材、姿勢・執筆法の理解 臨書、漢字の変遷の理解
		4	P.16～19	漢字の学習 I 楷書 初唐の三大家の作品 ・孔子廟堂碑「大道」	唐代の代表的な楷書作品の鑑賞と臨書 それぞれの特徴をつかむ
	6	4	P.20～21	・九成宮醴泉銘「清泉」	
	7	8		・「四方逮乎立年撫臨億兆始以武功壹海内終以文徳」	書教展に向けて半切作品づくり
		計 20			
二学期	9	4	P.62～63	篆書に親しもう 泰山刻石「皇帝」	篆書の筆遣いを学び、篆刻作品作りにつなげる
	10	8	P.64～67	篆刻 名前印 朱文印・白文印	用具用材を学び正しい用具の使い方 作品を作る
	11	6			
	12	4	P.74～83	仮名の書の世界	仮名の成立・古典・筆遣い・連綿を学ぶ
		計 22			

二 学 期	1	4	P.84～87	仮名の学習	いろは歌、変体仮名を学ぶ
	2	4			
	3	2			
		計 10			

英語コミュニケーションⅠ（2024年度）

単位数	3単位
担当	山本・伊澤
教科書	Landmark Fit English Com.Ⅰ（啓林館）
対象生徒	高校1年 進学クラス

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通し、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと(発表)」「書くこと」の5領域の力を育成する。

2. 副教材・参考書

Landmark Fit English Com.Ⅰ サブノート（啓林館）
英語4技能型テストへのアプローチ⑩（数研出版）
総合英語 Harmony（いっずな書店）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書にざっと目を通し、何が書かれているのか、トピックの推測をすることが望ましい。
- ・授業が終わった内容は、サブノート、プリント類で復習する。
- ・新出語の発音練習や教科書音読の際は間違いを恐れずに声を出して積極的に参加する。
- ・週1回実施される単語の小テストは事前に自分で十分に学習してから受験をする。

4. 課題・再試について

- ・課題は期限を守って提出すること。
- ・定期試験の素点が30点に満たない場合は再試験を実施する。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(英検加点あり・80%)パフォーマンス評価(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	自己紹介, Lesson 1 Enjoy Your Journey! / 4技能テスト⑩ Test 1 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
	期末	Lesson 2 Curry Travels around the World / 4技能テスト② Test 2 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
二学期	中間	Lesson 3 School Uniforms / 4技能テスト⑩ Test 3、4 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
	期末	Lesson 5 Bailey the Facility Dog / 4技能テスト⑩ Test 5 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表

三 学 期	学年末	Lesson 8 The Best Education to Everyone , Everywhere /4 技能テスト⑩ Test 6, 7 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交 換及び発表
-------------	-----	--

7. パフォーマンス評価

	パフォーマンステスト (10 点)	提出物 (5 点)	単語テスト (5 点)
1 学期	教科書音読	Worksheet サブノート等	教科書既習単語
2 学期	インタビュー・ショー	Worksheet サブノート等	教科書既習単語
3 学期	プレゼンテーション My Dream Job	Worksheet サブノート等	教科書既習単語

英語コミュニケーションⅠ（2024 年度）

単位数	3 単位
担当	斉藤
教科書	Landmark English Com.Ⅰ（啓林館）
対象生徒	高校 1 年(特進クラス)

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
- ・目的や場面、状況等に応じて外国語でコミュニケーションを図る力を着実に育成（5 領域）
「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の力をバランスよく育成する。

2. 副教材・参考書

Landmark English Com.Ⅰ サブノート（啓林館）
Landmark English Com.Ⅰ ワークブック（啓林館）
英語 4 技能型テストへのアプローチ⑩（数研出版）
英単語ターゲット 1400（旺文社）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書にざっと目を通し、何が書かれているのか、トピックの推測をすることが望ましい。
- ・授業が終わった内容は、サブノート、ワークブックで復習する。
- ・新出語の発音練習や教科書音読の際は間違いを恐れずに声を出して積極的に参加する。
- ・週 1 回実施される単語の小テストは事前に自分で十分に学習してから受験をする。

4. 宿題・課題・再試について

- ・宿題は教科書の内容を中心としてサブノート、ワークブックを中心に音読などを課す。
- ・英単語ターゲット 1400 を使用して、単語の小テストを週に 1 回実施する。満点を目指して学習をすること。
- ・学期に 1 回程度、スピーキングもしくは音読を中心としたパフォーマンステストを実施する。
- ・定期テストが 30 点未満の場合は再試もしくは再試課題を課す。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 60%応用問題 20%)，提出物や単語小テストを含むパフォーマンス評価(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	Lesson1 Enjoy Your Journey part1～4 4 技能テスト① Test1・2 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.1～200) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
	期末	Lesson3 School Uniforms part1～4 4 技能テスト① Test 3 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.201～450)、夏休み課題(No.451～600) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
二学期	中間	Lesson4 Eco-Tour on Yakushima part1～4 4 技能テスト① Test 4、5 Lesson7 Dear World: Bana's War part1・2 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.601～800) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
	期末	Lesson6 Communication without Words part1～4 4 技能テスト① Test 6 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.801～1100) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
三学期	学年末	Lesson 8 The Best Education to Everyone part1～4 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.1～1100 までの復讐) 4 技能テスト① Test 7 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表

英語コミュニケーションⅠ（2024年度）

単位数	4単位
担当	斉藤
教科書	Landmark English Com.Ⅰ（啓林館）
対象生徒	高校1年(英語クラス)

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
- ・目的や場面、状況等に応じて外国語でコミュニケーションを図る力を着実に育成（5領域）
「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の力をバランスよく育成する。

2. 副教材・参考書

- Landmark English Com.Ⅰ サブノート（啓林館）
- Landmark English Com.Ⅰ ワークブック（啓林館）
- 英語4技能型テストへのアプローチ⑩（数研出版）
- 英単語ターゲット1400（旺文社）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書にざっと目を通し、何が書かれているのか、トピックの推測をすることが望ましい。
- ・授業が終わった内容は、サブノート、ワークブックで復習する。
- ・新出語の発音練習や教科書音読の際は間違いを恐れずに声を出して積極的に参加する。
- ・週1回実施される単語の小テストは事前に自分で十分に学習してから受験をする。

4. 宿題・課題・再試について

- ・宿題は教科書の内容を中心としてサブノート、ワークブックを中心に音読などを課す。
- ・英単語ターゲット1400を使用して、単語の小テストを週に1回実施する。満点を目指して学習をすること。
- ・学期に1回程度、スピーキングもしくは音読を中心としたパフォーマンステストを実施する。
- ・定期テストが30点未満の場合は再試もしくは再試課題を課す。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 60%応用問題 20%)、提出物や単語小テストを含むパフォーマンス評価(20%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	Lesson1 Enjoy Your Journey part1～4 / Lesson3 School Uniforms part1・2 4 技能テスト① Test1・2 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.1～200) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
	期末	Lesson3 School Uniforms part3・4 / Lesson4 Eco-Tour on Yakushima part1～4 4 技能テスト① Test 3・4 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.201～450)、夏休み課題(No.451～600) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
二学期	中間	Lesson6 Communication without Words part1～4 / 4 技能テスト① Test 5、6 Lesson7 Dear World: Bana's War part1・2 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.601～800) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
	期末	Lesson7 Dear World: Bana's War part3・4 Lesson 8 The Best Education to Everyone part1～4 4 技能テスト① Test 7 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.801～1100) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表

論理・表現Ⅰ（2024年度）

単位数	2単位（English Speaker の教員 1+日本人教員 1）
担当	濱田、伊澤、早川、斉藤、リカ（EP）
教科書	HarmonyⅠ（いっずな書店）
対象生徒	高校1年（進学・特進）クラス

1. 授業の目標

・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

・5領域のなかの特に3領域、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」において、発信力の強化をはかる。

2. 副教材・参考書

Harmony New Edition（いっずな書店）全クラス共通
Harmony Grammar Book（いっずな書店）特進クラスのみ

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・英語で自分の事を表現する楽しさを感じながら勉強すること。
- ・中学までの既習事項の整理・定着をさせるために授業後の復習を大切にする。
- ・英語を話したり、書いたりするアウトプット活動が授業では多いので、間違いを恐れずに積極的に参加すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・文法項目を学んだあと、反復練習と確認のための課題を出す。また、スピーキングやライティング能力を伸ばす為、発表する機会もある。
- ・必要に応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が30点未満の場合は原則として再試験を実施する。

5. 評価の基準について

- ・授業内試験の点数から10段階で評価する。課題の提出物、授業内小テスト、授業発表も評価内に含む。パフォーマンス評価はEPの授業評価を50パーセント、日本人の授業内容、試験内容を50パーセントとする。定期試験には応用問題も含まれる。（約20%）
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	前半	日本人：Introduction「やりとり」「書く」「発表」のためのウォーミングアップ Lesson 1 自分のことを話す Lesson 2 過去にしたことを話す ES：（Writing）Self introduction / Arranging Schedule in English
	期末迄	日本人：Lesson 3 自分の予定を話す Lesson 4 自分の経験について話す Lesson 5 しても良いこと・してはいけないことを伝える ES：（プレゼン）Do's and don'ts / Things Japanese
二学期	前半	日本人：Lesson 6 出来事について推測する Lesson 7 日本文化について紹介する ES：（Writing）Things Japanese

	期末迄	日本人：Lesson 8 将来の夢について話す、書く Lesson 9 説明を付け加える Lesson10 知覚動詞・使役動詞 ロボットにしてもらいたいことを話す・書く ES : (プレゼン) Talking about Dreams My Dream Job / What I want to do in the future
三 学 期	学年末	日本人：Lesson 11 自分の趣味・クラスメイトの趣味 Lesson 12 ～している、～された の表現 (分詞) Lesson 13 トラブルの相談 Lesson 14 有名人や彼らの功績について説明する ES : The Person That I Admire The Most 憧れの人についてエッセイを書き、プレゼン テーションを行う

論理・表現 I （2024 年度）

単位数	3 単位（English Speaker の教員 1+日本人教員 1）
担当	斉藤、リカ
教科書	Harmony I （いっずな書店）
対象生徒	高校 1 年（英語クラス）

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、 情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
- ・5 領域のなかの特に 3 領域、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」において、発信力の強化をはかる。

2. 副教材・参考書

Harmony New Edition（いっずな書店） 全クラス共通
Harmony Grammar Book（いっずな書店） 特進クラスのみ

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・英語で自分の事を表現する楽しさを感じながら勉強すること。
- ・中学までの既習事項の整理・定着をさせるために授業後の復習を大切にする。
- ・英語を話したり、書いたりするアウトプット活動が授業では多いので、間違いを恐れずに積極的に参加すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・文法項目を学んだあと、反復練習と確認のための課題を出す。また、スピーキングやライティング能力を伸ばす為、発表する機会もある。
- ・必要に応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。合格点は 70 点以上とする。

5. 評価の基準について

- ・授業内試験の点数から 10 段階で評価する。課題の提出物、授業内小テスト、授業発表も評価内に含む。パフォーマンス評価はリカ先生の授業評価を 50 パーセント、日本人の授業内容、試験内容を 50 パーセントとする。定期試験は毎回行う。定期試験には応用問題も含まれる。（約 20%）
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	日本人：Introduction「やりとり」「書く」「発表」のためのウォーミングアップ Lesson 1 自分のことを話す・相手のことをたずねる Lesson 2 過去にしたことを話す Lesson 3 自分の予定を話す・相手の予定をたずねる Lesson 4 自分の経験について話す 外国人：Arranging Schedules in English スケジュールの調整を英語で行う
	期末	日本人：Lesson5 してもよいこと・いけないことを伝える Lesson6 出来事について推測する Lesson7 日本文化について紹介する 外国人：Introducing Japanese culture in English

二 学 期	中間	日本人：Lesson 8 将来の夢について伝える Lesson 9 情報を補ってあることを伝える Lesson 10 テクノロジーの可能性について伝える Lesson 11 自分の趣味について伝える 外国人：My dream and what I want to do in the future
	期末	日本人：Lesson 12 生き物や人について説明する Lesson 13 トラブルを相談する Lesson 14 有名人やその人の功績について伝える Lesson15 場所について説明を追加する 外国人： The person who I respect

情報Ⅰ（高校1年）

学年	高校1年
単位数	2単位
担当	美～敬 五十嵐 美彦
教科書	実教出版「最新 社会と情報」

1. 授業の目標

- ・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深める
- ・社会、産業、生活、自然等さまざまな事象を情報とその結び付けとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う
- ・情報社会に主体的に参画する態度を養う

2. 実習教材・参考書

- ・実教出版「最新情報Ⅰ 学習ノート」

3. 学習する上での留意点

- ・基本的なコンピュータ操作を自らできるようにする。
- ・正解を聞いて動くのではなく、正解を求めトライし、エラーであれば改善するプロセスを身に付ける

4. 評価の基準について

各学期、期末試験と実習作品、毎授業で実施する課題提出にて成績を評価する。

	基本問題(定期試験)	応用問題(定期試験・実習)	パフォーマンス(実習・成果物等)
A	基本的な問題を概ね解くことができる。	座学での学習を実習に活かし高いレベルで技術を習得している。	実習に意欲的に取り組み、課題の質も高く取り組んでいる。
B	基本的な問題を解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。 実習の技術を習得し、適切な判断をして成果物を作成できている。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

5.その他

年間指導計画				
学期	月	時間	単 元	授業内容
第 一 学 期	4	5	<座学单元> 5章：問題解決とその方法 1章：情報社会と私たち ≪実技单元≫ 2章：情報デザイン	<座学> ・データ、情報、知識の違いを正しく理解しデジタル化された情報を正しく取り扱おうとする。 ・情報社会の特性や学ぶ意義を、協力しながら学んでいく。 ≪実技≫ 2章の情報デザインを、プレゼンテーションを通し学び、スキルを磨いていく。
	5	6		
	6	8		
第 二 学 期	9	8	<座学单元> 3章：システムとデジタル化 ≪実技单元≫ 2章：情報デザイン 6章：アルゴリズムとプログラミング	<座学> ・情報機器の種類と特徴、インタフェースについて ・デジタル化のメリットについて ・情報を2進数で表現することについて ・情報量の概念と単位について ・2進数・10進数・16進数の相互変換 ・文字のデジタル表現について ・音声のデジタル表現について
	10	5		
	11	6		≪実技≫ アルゴリズムとプログラミングを実践を通して学び、コンピュータの内部構造やデータの動きを理解する。
	12	3		
第 三 学 期	1	5	<座学单元> 4章：ネットワークとセキュリティ 5章：問題解決とその方法 ≪実技单元≫ 5章 2節：データの活用 3節：モデル化とシミュレーション	<座学> ・社会における情報システムに興味・関心を持ち、座席予約など情報システムを活用できるか。また、社会における主な情報システムの種類と内容について理解しているか。 ・年間を通した学習のまとめとして、率先して問題解決に取り組み、問題解決のための手段を選択できるか。恩恵と問題点を整理し、情報化社会を生きていくうえで情報システムを何に注意しどう利用すべきかを考える。 ≪実技≫ データの入力と抽出ができ、関数を利用できるか。 条件に合うデータの検索ができるかを目標に演習を行う。 レポート作成を通して、学習してきた表現や工夫を実践する。

仏教（2024 年度）

単 位 数	1 単位
担 当	横山 知世子（副：永井俊道）
教 科 書	『駒沢学園の仏教』のプリント
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

一年間の駒沢学園の仏教行事と、お唱え（三帰礼文、四弘誓願文、五観の偈）を理解させると同時に、釈尊や道元禅師の一生を学ぶことで、生き死について考えを深める。
また「仏道をなろうというのは自己をなろうなり」（『正法眼蔵』）という教えをもとに、仏教の時間をとおして、自分とは何か、「今」をどう生きるのかを、一人ひとりが自分事として、見つめなおす時間にしていく。

2. 副教材・参考書

- ・『駒沢学園の仏教』
- ・DVD・プリントなど
- ・授業において、坐禅・写経・写仏の体験実習を行う。

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

創立 96 周年の歴史を持つ、駒沢学園の仏教の原点に立ち戻り、建学の精神を重視する学習を目標とする。
本学園の禅を基盤とする建学の精神や日常の学校活動・年間仏教行事などの理念や目的を明らかにし、坐禅実習を通して生徒の身心の育成にあたる。

4. 宿題・課題・再試について

- ・授業時に行う課題提出状況によりパフォーマンス評価の加点対象となる。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は課題を行う。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点（80％）、提出物（20％）により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題（定期試験等）	応用問題（定期試験等）	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
第一学期	期末	建学の精神 「正念」と「行学一如」 花まつり 人間の生命の誕生、命の大切さ、平等思想について
		坐禅実習 坐禅の意義、仕方について
		三帰礼文 人間の正しい生活の心構えについて
		四弘誓願文 智慧と慈悲の関係、四苦八苦について
第二学期	期末	永平寺研修 永平寺や道元禅師について
		追善記念日 「千の風になって」から追善供養の意義について考える。
		五観の偈 恩について、六道輪廻について 絵本『いのちをいただく』を読み、普段何気なく食している食べ物にも「命」の存在があったということに思いを巡らせる。そして「いただきます」の本来の意味を考えさせ、感謝の気持ちを抱くことやいのちの大切さを知る。
		写経・写仏 仏教文化に親しむ
第三学期	学年末	摂心会と成道会 腰塚勇人『命の授業』から、日常生活の中において自分自身を見つめ直し、思いやりや生かされていることの意味を考える。(無財の七施)
		誕生記念日 道元禅師、学園の誕生にちなみ、新しい生命の誕生、そして大切さを学ぶ。
		涅槃会と針供養 釈尊の涅槃に基づき、命の大切さ、死、そして人間としての生き方について考える。 (自灯明・法灯明)
		山上忌

高1 ライフデザイン(2024 年度)

単位数	1 単位
担当	学年教員全員
教科書	なし
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標
- 人生のターニングポイントで、自分の満足し得る選択肢を見出すことが出来る力＝「人生を切り拓く力」を身に付ける。5つの分野（コミュニケーションスキル・キャリアプラン・マネープラン・ウィメンズライフ・ジェンダー）の活動を行う。
2. 副教材・参考書
- 『アンガーマネジメント Vol.1』（一般社団法人アンガーマネジメントジャパン）
3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等
- ①グループワーク（協働型学習）が、中心になるため、他の人の話をよく聞き、協力する姿勢を大切にする。
- ②自分の考えをまとめて発表する活動では、人に伝わるように留意する。
- ③提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。
4. 宿題・課題・再試について
- 各活動で課題が必ず出される。
5. 評価の基準について
- 発表及び提出課題で評価をつける。各学期は5段階で評価し、学年末には「総合的な探究の時間」として Komajo Quest と総合して A・B・C の3段階の評価をつける。
6. その他
- 授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画			
学期	試験	授業内容（教材）	
一学期	期末	コミュニケーションスキル キャリアプラン	アンガーマネジメント Vol.1（1回目） 職業人インタビュー
二学期	期末	ウィメンズライフ コミュニケーションスキル マネープラン	月経座談会・誕生学ワークショップ アンガーマネジメント Vol.1（2回目以降） 人生ゲーム
三学期	学年末	キャリアプラン ジェンダー	生き方を考える講演会・ ジェンダー入門・映画「ソニータ」鑑賞・世界の女性たち

単位数	1 単位
担当	学年教員全員
教科書	なし
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標
- プロジェクトを進め、将来生きていく上で必要な力を身につける。
「思考力や判断力、表現力」「さまざまな人々と協働して学ぶ態度」などの、新しい大学入試や社会で必要な力が自然に身につけていく。
2. 副教材・参考書
- なし
3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等
- ①グループワーク（協働型学習）が、中心になるため、他の人の話をよく聞き、協力する姿勢を大切にする。
②自分の考えをまとめて発表する活動では、人に伝わるように留意する。
③提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。
4. 宿題・課題・再試について
- 各活動で課題が必ず出される。
5. 評価の基準について
- 発表及び提出課題で評価をつける。各学期は 5 段階で評価し、学年末には「総合的な探究の時間」としてライフデザインと総合して A・B・C の 3 段階の評価をつける。
6. その他
- 授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画	
学期	授業内容（教材）
一学期	Love Books Project
二学期	Logical Debate Project
三学期	My Favorite Project ～Basic～